

令和2年度総合文化センター自主事業実績・評価一覧

1 質の高い舞台公演の実施「鑑賞系事業:本物の芸術文化に触れる機会を提供」(主催事業)

事業名	開催月日	曜日	会場	事業内容	入場者数(人)	経費の自立度
【室内楽】 追加 びび♥ニュースタイル・スペシャルコンサート	7月5日	日	iichiko 音の泉ホール	びび有料会員限定の第1弾コンサート。ジュニアオーケストラの演奏会に先立ち、同オケの講師たちを中心とした出演者に、コロナ対策を講じた「新しい生活様式」でのコンサートを企画したもの。ピアノソロでのバッハから始まり、オーボエ、テューバと管楽器の演奏が続き、後半はアンサンブルとなり、最後はピアノ五重奏曲「鱈」で夏らしく爽やかに締めくくった。	昼:170 夜:123	-
【室内楽】 追加 びび♥ニュースタイル・ハッピーコンサート	7月24日	金	iichiko 音の泉ホール	びび有料会員限定の第2弾コンサート。大分に縁のある若手演奏家を出演者に、コロナ対策を講じた「新しい生活様式」でのコンサートを企画したもの。無伴奏チェロのバッハから始まり、ピアノソロ、弦楽アンサンブルと進み、出演者全員によるピアノ四重奏曲で締めくくった。	昼:160 夜:96	-
【オーケストラ】 ジュニアオーケストラ第11回定期演奏会	8月10日	日	iichiko グランシアタ	前年度の3月に予定していたコンサートが延期となり開催したもの。感染症対策を施しての開催となった。指揮者の梅田俊明先生は、子どもたちへの指導に優れ、短期間にまとめていただいた。前半はベートーヴェン生誕250年記念交響曲第1番を、後半はニューイヤークンサートのように明るく楽しいポルカやワルツを並べて演奏した。	515	16.4%
【オペラ】 帰ってきた!青島広志のおしゃべりオペラディックコンサート	9月9日	水	iichiko 音の泉ホール	10月24日に公演予定のオペラ『トゥーランドット』のレクチャーコンサートとして、TVなどで人気の青島広志氏と歌手3人による公演。前半は、「クラシック音楽は『中国』をどうとらえたか」をテーマに、ヨーロッパや日本の作曲家が中国をテーマに作曲した歌曲『蘇州夜曲』などを紹介し、後半は、オペラ『トゥーランドット』の紹介で、冒頭に中国民謡を基にした児童合唱曲『東の山の頂で』を皆で歌ったあと、あらすじを解説しながら、場面ごとのアリアを歌手が歌った。	282	27.8%
【室内楽】 iichiko presents ベートーヴェン弦楽四重奏曲全曲演奏会〜第5幕	9月28日	月	iichiko 音の泉ホール	若手実力者4人組のウェールズ弦楽四重奏団によるベートーヴェン・ツィクルスで、本年のベートーヴェン生誕250年を目指して5年前から始めた事業。今回は、ベートーヴェン若き時代の晴朗な秀作第1番に始まり、そして中期の創作興隆期の第11番「セリオン」、そして最晩年に創作を重ね創造力が泉のように溢れ出した傑作第14番で締めくくった。	226	47.5%
【オペラ】 グランドオペラ共同制作 オペラ「トゥーランドット」	10月24日	土	iichiko グランシアタ	神奈川県民ホール、山形県総合文化芸術会館などとの共同制作によるオペラで、今回は6作目となった。ダンス界の鬼オと言われる大島早紀子が演出・振付したもので、コロナ対応として合唱団が動けない部分を空中を縦横無尽に動くダンサーが担った。トゥーランドット姫役の田崎尚美がノブルな演技と高音の美しさ、王子カラフ役の福井敬が熱さと恍惚感あふれるアリアで、召使いリュー役の木下美穂子(県立芸短大卒業)が伸びやかで心に染み入る歌声で、会場を魅了した。加えて大分市出身の児玉和弘が道化役として重要な3大臣のうちパン役を務め、コミカルで達者な演技と歌声で存在感を示した。地元から県立芸短大音楽科の学生がバンドとして、大分大附属小コーラス部が児童合唱として参加し、大きな声援を浴びた。「コロナの時期に、今の日本で第一級の歌手の歌声が聴くことができ、幸せなひとときでした」「キラキラ輝く豪華絢爛の舞台で、ダンサーが宙を舞い、合唱団の歌声も天から降ってくるようでした」などとお客様から高い評価をいただいた。	852	27.8%
【室内楽】 追加 松田華音ピアノリサイタル	11月1日	日	iichiko グランシアタ	ロシアで研鑽を積んだ若きホープであるピアニスト松田華音さんのリサイタルを開催。6歳よりモスクワに渡り、モスクワ音楽院を2019年6月に首席で卒業し、活躍中。今回は、ベートーヴェンイヤーであることから、ピアノソナタ第17番「テンペスト」と同第23番「熱情」を、後半はショパンのパラードを3曲演奏した。激しくも湧き上がる音の粒がホール全体に広がり、感動が観客を包み込んだ。	596	89.5%
【室内楽】 iichiko presents ベートーヴェン弦楽四重奏曲全曲演奏会〜第6幕	11月12日	木	iichiko 音の泉ホール	若手実力者4人組のウェールズ弦楽四重奏団によるベートーヴェン・ツィクルスで、本年のベートーヴェン生誕250年を目指して5年前から始めた事業。今回は最終公演で、ベートーヴェン若き時代の激情や美しい情緒を感じさせる第4番に始まり、そして中期の創作興隆期の第10番「ハーブ」、そして中期の代表作第7番「ラズモフスキー第1番」で締めくくった。「同じ奏者の演奏をシリーズで聴くことができ、とても深く豊かに楽しみました。」「ピッチカートのかげあいの美しさなどが心に残り弦楽器の奏法の幅広さを感じた。」などとお客様から高い評価をいただいた。	262	47.5%
【オーケストラ】 追加 九州交響楽団大分公演	12月13日	日	iichiko グランシアタ	ベートーヴェン生誕250年を記念した大分ベートーヴェン・ツィクルスの公演として、交響曲第2番と同第6番「田園」を演奏した。指揮はベテランの現田茂夫で、演奏は九州を代表するプロオーケストラである九州交響楽団。若き日の力作である第2番と幸福感に満ちた第6番のペアリングで、前者はあまり聴く機会のない曲ではあるが、ベートーヴェンの革新性・独創性が感じられ、後者は作曲者自身が名付けた標題に沿って、ゆったりとしたテンポで田園風景が表現され、観客にも評価の高い演奏であった。	424	32.9%
【室内楽】 ワンコインリレーコンサートvol.1 ようこそ おでかけクラシックコンサート	12月17日	木	iichiko 音の泉ホール	日ごろは当劇場を飛び出して、県内各地の学校や施設を訪問し、演奏をお届けしている「おでかけクラシックコンサート」。この出演アーティスト9組が一堂に会し、ホールコンサートを開催した。昼は4組、夜は5組のアーティストが出演し、それぞれ得意な演目を披露した後、出演者全員による特別編成でベートーヴェン作曲交響曲第9番「合唱付き」第4楽章(抜粋)を演奏した。演奏も解説も十分に熟達した内容で観客の感動を呼んでいた。また、第九演奏もバラエティに富んだ編曲による演奏で華を添えた。	昼:151 夜:90	14.2%

1 質の高い舞台公演の実施「鑑賞系事業:本物の芸術文化に触れる機会を提供」(主催事業)

事業名	開催月日	曜日	会場	事業内容	入場者数(人)	経費の自立度
11 【室内楽】 小林道夫チェンバロ・リサイタル第4章 バルティータPart2	1月16日	土	iichiko 音の泉ホール	バロック音楽に造詣が深く、バッハ演奏においては最高の評価を得る音楽家・小林道夫氏(由布院在住)。当劇場所有の優雅で繊細な音色が特徴的なフランス製チェンバロを用いて、4年目の今年には「J.S.バッハ作曲『バルティータ』」の後半部分を中心に3曲演奏した。各曲は、形式の異なる舞曲で構成された組曲となっており、先生の長年の研究に裏打ちされた解釈で演奏され、バロック時代の典雅な世界に聴衆はすっかり引き込まれた。	180	42.7%
12 【室内楽】 ワンコインリレーコンサートvol.2	1月23日	土	iichiko 音の泉ホール	障がいがある人もない人も、子どもから大人までが、劇場という非日常の空間を体験できるプログラム。今回は日本舞踊を題材に、各種鑑賞支援を取り入れて上演した。出演は、「藝〇座」(げいまるざ)という東京藝大邦楽科卒業生による若手日本舞踊家集団。まずは伝統美の古典「水仙丹前」を演じ、次に実演付きの解説を加え、最後に新作「桃太郎」を演じた。子どもたちの参加も多く、わかりやすい取組で楽しめたと評判であった。	262	14.2%
13 【室内楽】 ワンコインリレーコンサート vol.3	2月27日	土	iichiko 音の泉ホール	マリンバ:塚越慎子とピアノ:志村和音によるコンサート。マリンバのトレモロを活かした情感あふれる曲から、目の回るようなパチさばきが鮮やかなアップテンポの曲まで多彩なプログラムであった。途中に、楽器や曲の紹介などトークを交えての舞台で、昼夜二公演ともに満席の会場は大いに盛り上がった。	昼:270 夜:275	14.2%
14 【室内楽】 大分ベートーヴェン・プロジェクト2020 九州交響楽団 大分特別追加公演	3月7日	日	iichiko グランシアタ	ベートーヴェン・チクルスの最後となる交響曲第7番を演奏。指揮の茂木大輔氏は、「のだめカンタービレ」の音楽監修を手がけ、このメインテーマ曲となった交響曲第7番は、最も得意とする曲である。加えて、「のだめ」の中での使用曲「ラプソディ・インブルー」をジャズピアニスト山下洋輔氏とコラボし、しかもカデンツァ部分でベートーヴェンの交響曲をあこれこれと組み合わせるという趣向となった。最後のアンコールでは、チクルスを締めくくると交響曲第9番の「喜びの歌」部分を取り上げた。	763	32.9%
15 【伝統芸能】 市川海老蔵 古典への誘い	3月21日	日	iichiko グランシアタ	年に一度の歌舞伎公演は、人気の市川海老蔵主演の「古典への誘い」であった。前半は、春らしく桜が咲き誇る吉野山を舞台にした舞踊『舞妓の花宴』。後半は、白浪五人男が登場する人気の『弁天娘女男白浪』。特に後半では、海老蔵が弁天小僧を演じ、若い娘からも肌脱いだら見事な彫り物の男に転じ、『知らざあ言って聞かせやしょう』で始まる七五調の名せりふで魅了します。更には、桜並木の土手に白浪五人男が勢揃いし、順に名乗りを上げるという錦絵さながらの美しい舞台を堪能した。	1,338	85.0%
16 【オーケストラ】 iichikoグランシアタ・ジュニアオーケストラ 第12回定期演奏会	3月28日	日	iichiko グランシアタ	アカデミー生によるウェルカムコンサートで始まり、3組13人が出演した。前半にリスト作曲の交響詩「前奏曲」、伊藤康英作曲の管弦楽のための交響詩「ぐるりよざ」で、隠れキリシタンの苦悩、喜びが描かれた作品で、後半にドヴォルザーク作曲の交響曲第9番「新世界より」が演奏された。指揮者は延岡市出身の若手ホープの山脇幸人氏で、のびやかな、わかりやすい指揮で好評であった、また、「ぐるりよざ」で、龍笛を宇佐市安心院出身のメ野護元氏が務め、透明感のある音色に魅了された。	712	16.4%

(参考)以下の主催事業(鑑賞系事業)は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中止となった。

事業名	開催月日	曜日	会場	事業内容	入場者数(人)	経費の自立度
1 【室内楽】 小曾根真 featuring No Name Horses	6月4日	木	iichiko グランシアタ	中止	-	-
2 【ミュージカル】 日生劇場ミュージカル リトルゾンビガール	9月26日	土	iichiko グランシアタ	中止	-	-
3 【オーケストラ】 ドイツカンマーフィル ハーモニー管弦楽団 <チクルス 第7番>	12月7日	月	iichiko グランシアタ	中止	-	-

2 質の高い舞台公演の実施「鑑賞系事業:本物の芸術文化に触れる機会を提供」(共催事業)

事業名	開催月日	曜日	会場	事業内容	入場者(人)
1 大分ベーターヴェン・プロジェクト2020 大分県立芸術緑丘高等学校 第16回定期演奏会	10月17日	土	iichiko グランシアタ	大分ベーターヴェン・プロジェクト2020の公演として、大分県立芸術緑丘高等学校の定期演奏会で、ベーターヴェンの交響曲第8番が森口真司先生の指揮で演奏された。「レベルが高く、皆さまの表情が輝いていました」「日ごろの練習の成果、努力が感じられました」などお客様から感想をいただいた	650
2 大分ベーターヴェン・プロジェクト2020 大分チェンバーオーケストラ 第15回記念演奏会 「宿命」	10月17日	土	iichiko 音の泉ホール	大分ベーターヴェン・プロジェクト2020の公演として、大分チェンバーオーケストラの定期演奏会で、ベーターヴェンの交響曲第5番が新通英洋氏の指揮で演奏された。「曲によって、緊張感を持ち終楽章まで息つかせぬ熱演でした」などお客様から感想をいただいた。	294
3 大分ベーターヴェン・プロジェクト2020 大分交響楽団 第43回定期演奏会	11月8日	日	iichiko グランシアタ	大分ベーターヴェン・プロジェクト2020の公演として、大分交響楽団の定期演奏会で、ベーターヴェンの交響曲第3番「英雄」などが森口真司氏の指揮で演奏された。伝統のある市民オーケストラの演奏に聴衆が詰めかけ、ベーターヴェンの名曲を楽しんだ。	294
4 大分ベーターヴェン・プロジェクト2020 別府市民フィルハーモニア管弦楽団 第27回定期演奏会	12月6日	日	ビーコンプラザ フィルハーモニアホール	大分ベーターヴェン・プロジェクト2020の公演として、別府市民フィルハーモニア管弦楽団の定期演奏会で、ベーターヴェンの交響曲第4番などが後藤龍伸の指揮で演奏された。伝統のある市民オーケストラの演奏に聴衆がベーターヴェンの名曲を楽しんだ。	533
5 葉加瀬太郎 コンサートツアー2020 FRONTIERS	12月23日	水	iichiko グランシアタ	ヴァイオリニスト葉加瀬太郎の30周年記念コンサート。葉加瀬のヴァイオリンに9人のアンサンブル奏者が加わり、華やかなステージとなった。「情熱大陸」など馴染みの曲も演奏され、詰めかけた多くの観客で盛り上がった。キョウドー西日本の主催。	925
6 ミュージカル「コーラスライン」	1月26日	火	iichiko グランシアタ	ブロードウェイの人気演目で、舞台上に生きるバックダンサーたちにスポットを当てたミュージカル。一人一人の人生にドラマがあり、夢をあきらめないダンサーたちが、2時間半ノンストップで演じる。ダンスの切れめもよく、タイミングの揃った群舞が、会場にも熱気として伝わり、大いに盛り上がった。コロナ禍以後最初のミュージカル公演でファンが待ち望んだものであった。劇団四季の主催。	794
7 大分県立芸術文化短期大学 第56回定期演奏会	2月19日	火	iichiko グランシアタ	ドイツの作曲家によるプログラム。定期演奏会では初めての吹奏楽によるヒンデミットの難曲から始まり、ベーターヴェンの大曲「ミサ・ソレムニス」で合唱とオーケストラが荘厳に歌い上げました。最後はワグナーの名曲が続き、「ワルキューレの騎行」では9人のソプラノが登場して、力強い歌を聴かせてくれました。コロナ禍で短い練習時間にもかかわらず、全学が一体となった迫力のステージに、大きな拍手が贈られました。	551
8 日本フィルハーモニー交響楽団 特別演奏会 with 九州 ライブビューイング	2月22日	月	iichiko グランシアタ	コロナ禍で中止となった日フィル九州公演の代替として開かれたライブビューイング。東京公演から送られてきたステージいっぱいの大画面に映し出された映像と迫力の音響に、観客は引き込まれていった。指揮者の藤岡幸夫がトークを交えながら、途中ピアノソロの藤田真央も加わり、臨場感あふれるイベントとなった。日フィル大分公演実行委員会の主催	193

(参考)以下の共催事業(鑑賞系事業)は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中止又は延期となった。

事業名	開催月日	曜日	会場	事業内容	入場者(人)
1 ミュージカル「モダン・ミリー」	5月13日	水	iichiko グランシアタ	-	-
2 第22回別府アルグリッチ音楽祭	5月23日	土	iichiko グランシアタ	-	-
3 芸文短大の定期演奏会(延期)	10月11日	日	iichiko グランシアタ	-	-
4 室内楽おおいた〜grand <チクルス 第6番>	11月28日	土	iichiko 音の泉ホール	-	-
5 東儀秀樹	12月2日	水	iichiko グランシアタ	-	-
6 大分第九の夕べ <チクルス 第9番>	12月13日	日	iichiko グランシアタ	-	-

3 人材育成事業「創造系事業:人を育て活かす」(主催事業)

事業名	開催月日	曜日	会場	事業内容	参加者(人)
1 【オーケストラ】 iichikoグランシアタ・ジュニアオーケストラ育成事業 第11回定期演奏会 第12回定期演奏会	通年 ①8月10日 ②3月28日	日	iichiko グランシアタ	新型コロナウイルスの感染拡大により、3月に予定されていた第11回定期演奏会が延期され、8月10日に開催。また第12回定期演奏会は、3月28日に同じく開催。4月以降は、Webによるオンラインレッスンや少人数で十分に間隔をとった練習環境の構築を行い、6月14日には4ヶ月ぶりの合奏を行った。指揮者の梅田俊明先生の優れた指導により演奏曲目も2曲カットしたにもかかわらず、「この時期に生の演奏が聴けて、心にしみこむようで、うれしかった。」と大きな喝采を浴びた中で、第11回定期演奏会は開催された。10月から作曲家の伊藤康英先生を招き作曲の経緯や解釈を交え指導をいただくとともに、1月からは今回の指揮者である山脇幸人氏を迎え、さらに、野野元氏の龍笛も加わりいよいよ第12回定期演奏会を3月28日に開催した。	①515 ②712
2 レセプション研修	①6月12日 ②6月19日 ③6月20日		iichiko グランシアタ	6月12日、今年度の新採用職員向けの研修をグランシアタを会場に行った。参加者15人(うち9人は県内他文化施設の職員)。お礼の仕方、チケットのもぎりや言葉使いなど、おもてなしの基礎技術の習得に努めた。6月19、20日、コロナ予防対策を取ったレセプション研修を行った。参加者は、27人、23人であった。行列に一定の距離を空ける、手指消毒、検温を行う、名前・電話番号をチケット半券裏に記入させるなど、新たな対応策を説明しながら、実際にやってみながらノウハウの習得に努めた。	①15 ②27 ③23
3 エモスタッフ育成事業	通年		iichiko グランシアタ 他	ホールボランティアとしての「emoスタッフ」は、第15期(令和元~2年度)48人。新型コロナウイルス感染拡大の中であったが、財団が主催・共催する公演等を中心に、レセプションとして40回のべ511人の参加により積極的な活動を行った。	511

4 人材育成事業「普及啓発事業:新たなファン層の拡大に資する」(主催事業)

事業名	開催月日	曜日	会場	事業内容	入場者、参加者(人)
1 ①第1回ベートーヴェンレクチャー ②第2回ベートーヴェンレクチャー	①9月16日 ②10月14日	水	② iichiko 音の泉ホール	①本年のベートーヴェン生誕250年を記念しての交響曲チクルス事業の一つとして、芸術文化短期大学音楽科教授で、指揮者である森口真司氏を講師に講演を行い、約90人の参加があった。今回は、1回目目で交響曲第1番から第4番までを中心とした。西洋クラシック音楽の時代区分を背景に、スライドやピアノによる演奏、CDで音楽を聴かせたりと分かりやすいもので、聴衆の評判もよかった。 ②本年のベートーヴェン生誕250年を記念しての交響曲チクルス事業の一つとして、芸術文化短期大学音楽科教授で、指揮者である森口真司氏を講師に講演を行った。今回は、2回目目で交響曲第5番から第8番までを解説。特に、第5番「運命」で『運命の動機』が200回も使われていることや指揮者による聴き比べをするなど、一般の方にも分かりやすいもので、「芸術をこんなに身近に語れることに驚いた」などと評判もよかった。	①76 ②115
2 チェンバロ・レクチャー	12月5日	土	リハーサル室	1/16 小林道夫チェンバロ・リサイタルを控え、初心者向けレクチャーを、アウトリーチ登録アーティストである大北絵三子を講師に開催した。チェンバロ、ヴァージナル、クラヴィコードと3種類の楽器を見せながら、音の出る仕組みや楽器の違いなどを解説しながら、実際に曲を聴いてもらった。後半は、今回演奏するバルティータ第5番(バッハ作曲)を解説しながら演奏した。	34
3 第九レクチャー&第九特別上映会	12月12日	土	iichiko 音の泉ホール	ベートーヴェン生誕250年を記念した大分ベートーヴェン・チクルスの公演の一つとして開催した。前半は指揮者の現田茂夫を講師に、作曲家ベートーヴェンのこと、交響曲のことを中心に、ピアノでパッセージを弾きながら解説した。後半はコロナ禍で来日中止となったパーヴォ・ヤルヴィ指揮、ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団で、交響曲第9番の演奏をDVD鑑賞してもらった。ステージ上の大きなスクリーンに、ホールでの豊かな音響が加わり、聴衆も満足げであった。	102
4 もっと楽しむための歌舞伎レクチャー	1月17日	日	リハーサル室	3/21 市川海老蔵主演の歌舞伎公演「古典への誘い」を控え、講師に元NHKアナウンサーで古典芸能解説者である葛西聖司を迎え、レクチャーを開催した。海老蔵が演じる「弁天小僧」のあらすじや見所を、録画映像を交えながら、軽妙な言い回しで解説していった。呉服屋で万引きの品物をすり替える場面や最大の見せ場である振袖のお嬢様が彫り物をした半裸の男姿をさらす場面など臨場感豊かな語り口に引き込まれた。	97
5 お出かけクラシック・コンサート 『しあわせアートストーリー』	(1) 7月22日 (2) 7月25日 (3) 7月28日 (4) 8月21日 (5) 8月28日 (6) 8月31日 (7) 9月10日 (8) 10月2日 (9) 11月12日 (10) 11月16日 (11) 11月17日 (12) 11月18日 (13) 11月26日 (14) 12月18日 (15) 2月25日 (16) 2月25日 (17) 2月26日 (18) 2月26日 (19) 3月12日 (20) 3月20日		各学校・施設	日頃クラシック音楽に触れることの少ない人々に、オーディションを通過し、研修を終えた大分県にゆかりのある若手演奏家を派遣し、生のクラシック音楽とその魅力をお届けした。 (1) 大分市/豊府高等学校 (2) 中津市/中津北高等学校 (3) 大分市/桜町こども園 (4) 大分市/七海保育園 (5) 大分市/たかおこども園 (6) 大分市/大在愛育保育園 (7) 日田市/三和小学校 (8) 中津市/樋田小学校 (9) 竹田市/菅生小学校 (10) 中津市/樋田小学校 (11) 日田市/三和小学校 (12) 杵築市/東小学校 (13) 佐伯市/上野小学校 (14) 宇佐市/津房小学校 (15) 宇佐市/南院内小学校 (16) 宇佐市/津房小学校 (17) 由布市/由布支援学校 (18) 大分市/芸術緑丘高等学校・大分大学付属小学校 (19) 大分市/子育てグループnaana (20) 大分市/大分大学付属小学校合唱部	(1) 90 (2) 60 (3) 120 (4) 38 (5) 128 (6) 55 (7) 60 (8) 64 (9) 27 (10) 27 (11) 42 (12) 64 (13) 40 (14) 33 (15) 20 (16) 35 (17) 120 (18) 179 (19) 34 (20) 28 合計1,264人
6 西洋音楽史講座(社会人向け芸術文化教養講座) 講師:岡田暁生氏 (京都大学人文科学研究所教授)	11月11日	水	映像小ホール	『「クラシック音楽」とは何なのか』をテーマに、クラシック音楽の歴史や現在のコロナ禍におけるクラシック音楽のあり方についての初心者向けの講座を開催した。ベートーヴェンの交響曲が当時の社会にとって、画期的なもので、これまで貴族社会中心の音楽文化を自由で平等な社会を目指す市民に普及させたこと。コンサートには必ず電気が不可欠など、音楽とインフラの関係性。ベートーヴェンの「第九」を例に、コロナ禍により皆が「集える」ことの素晴らしさに気づいたことなどが印象的だった。全体的に身近な話題と音楽とを密接につなげる内容で、初心者も入りやすく、楽しむことができた。	31